

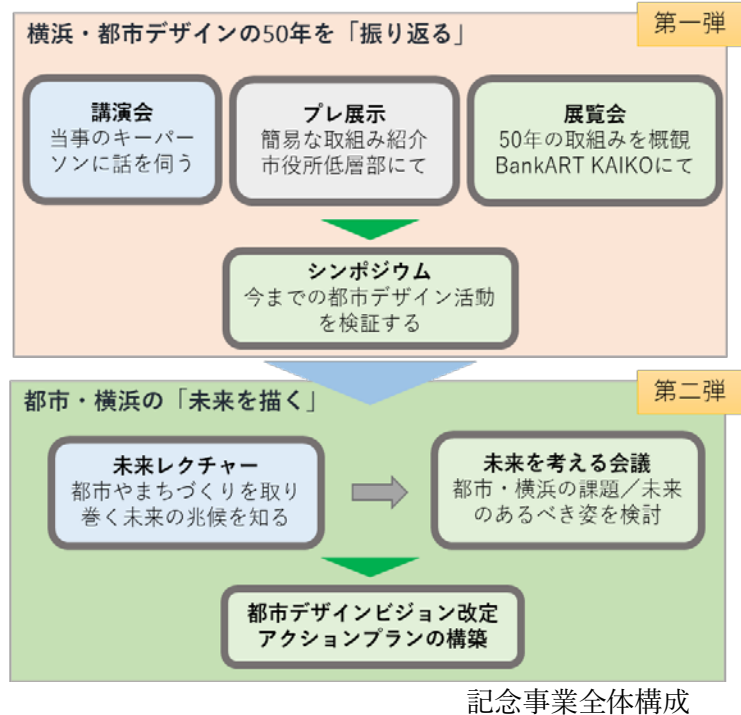
都市デザイン 50 周年企画について（報告）

1971年に専門部署である「都市デザイン担当」が設置されてから半世紀。横浜の都市デザイン行政は、今年、50周年を迎えました。

この間、様々な手法を用いながら、横浜の魅力づくりに取り組んできました。この機会に、横浜の都市デザインについて、広く市民や企業の皆さまにも参加いただきながら『振り返る』・『未来を描く』記念事業を今年度から実施します。

1. 企画概要について

横浜の都市デザインについて、「振り返る」・「未来を描く」の2つのカテゴリーに分け、広く市民や企業の皆さまにも参加いただきながら実施します。



■第一弾 横浜・都市デザインの50年を振り返る

1960年代の社会における6大事業等、社会課題の改善に向けて局を超えて横断的に真摯に取り組んできたことや、そうしたまちづくりと並走して、市民生活を豊かなものにしようとする取組まれてきた都市デザインの事例や思想等を、より多くの市民に知っていただくことを目指します。

（1）講演会

都市デザインの取組について、市民の皆様や企業の方々に広く知って頂くため、当時の関係者や、有識者等を招いた講演会を開催します。

第1回の講演会では都市デザイン萌芽期の基本的な考え方や目的について振り返ります。

【第1回講演会：『横浜都市デザイン～個性あるまちなみの原点を探る～』】

日時：2021年9月3日（金）18時半～（18時 受付開始）

会場：BankART KAIKO ＊オンライン配信あり

登壇者：岩崎駿介氏／国吉直行氏（共に横浜市の都市デザイン立上げに携わる）

ファシリテーター：卯月盛夫氏（早稲田大学教授）

※その他の講演会企画内容については資料5-2参照

(2) プレ展示

市役所2階のプレゼンテーションスペースにて、都市デザインの取り組みを10年ごとにご紹介する「プレ展示」を開催します。

場所：新市庁舎2階プレゼンテーションスペース
日時（予定）：◆1970年代・1980年代・1990年代
＝令和3年9月17日（金）～10月31日（日）
◆2000年代・2010年代＝令和4年1月7日（金）
～2月3日（木）

*会期中、一定期間ごとに展示替えがあります

(3) 展覧会

一般の方を対象に、模型や大型ビジュアルを用いた空間体験を通して、古いもの（歴史に紐づく個性）と新しいもの（進取の気質に基づく魅力づくり）の両方を大事にすることなど、都市デザインの取組に通底する価値観や思想を、分かりやすく伝えることを目指します。令和4年3月頃、約1か月間の開催予定です。



取組紹介イメージ

(4) シンポジウム「横浜をもう一度デザインする（仮称）」

これまでの50年の取組を振り返り、現在の横浜の都市デザインの取り組みを、『社会課題や市民生活への関与』の視点から検証し、今後進むべき方向について示唆を得るため、広くまちづくりや社会情勢に認識のある方や、企業・地域の代表の方等を交えたシンポジウムを、開催します。

■第二弾 都市・横浜の未来を描く

長期的視野に立った今後の社会やまちづくりの在り様について、まちづくりに関わる庁内各局の職員や庁外の企業人・学生等と共に検討・予測し、共有していきます。

(5) 未来レクチャー

環境、ICT、ウェルネスなど、都市の未来を考えるうえで重要となる分野の先駆者の方をお招きし、未来を考える公開レクチャーを、令和3年秋ごろから複数回開催します。

(6) 未来を考える会議

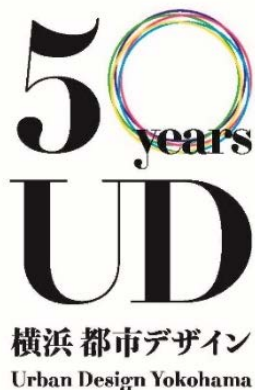
①横浜や都市の未来予測の共有、②テーマごとのグループワーク③横浜の望ましい未来の構想（提案）④バックキャストによるアクションプラン検討からなる会議（連続ワークショップ）を令和4年度に開催します。参加者は、専門家や、官民学からの若手を中心に公募により募ります。

一連の記念事業から得られた知見をもとに、都市デザインと現在の社会ニーズの関係を改めて考え、横浜の社会課題や市民生活に積極的に関与していくため、横浜の都市デザインがどのような考えを持ち、何をすべきか、その役割を庁内にて検討し、具体のアクションプランに繋がります。

2. 広報計画

(1) 都市デザイン 50 周年 PR ロゴマーク

都市デザイン 50 周年ロゴは、横浜の個性を表す字体「濱明朝」を用いると共に、カラフルな 5 重の輪が、時代ごとの都市デザインの積層と、様々な人やまちづくり活動との連携を表しています。



(2) 都市デザイン室公式ツイッターアカウント

50 周年事業を含む、都市デザイン室の施策や取組に関する情報を、広く市民の皆さまに発信するため、令和 3 年 4 月からツイッターを開始しました。

アカウント名	@yokohama_ud (横浜市都市デザイン室)
アカウント URL	http://twitter.com/yokohama_ud

3. 実行体制

(1) 横浜都市デザイン 50 周年事業実行委員会

実行委員会を立ち上げ、展覧会を中心とした事業を推進します。

会長 国吉直行さん (横浜市立大学客員教授 / 都市美委員 / 都市デザイン室OB)

副会長 西村幸夫さん (東京大学名誉教授 / 國學院大學教授 / 都市美委員)

委員 西脇敏夫さん (都市デザイン室OB)

鈴木伸治さん (横浜市立大学教授)

野原卓さん (横浜国立大学准教授 / 都市美委員)

監事 秋元康幸さん (横浜市立大学・横浜国立大学・日本大学・フェリス女学院大学非常勤講師 / 都市デザイン室OB)

(2) 協力体制

展覧会及び 50 年分のアーカイブ作成について、大学等の協力を得ながら進めます。

企画アドバイザー 鈴木伸治先生、野原卓先生

展示ディレクション 曾我部昌史先生、小泉雅生先生

模型・展示物制作協力 横浜国立大学、横浜市立大学、関東学院大学、神奈川大学等

協力 BankART1929

	①	②	③	④	⑤	⑥
タイトル (仮)	横浜都市デザイン ～個性あるまちなみの原点を探る～	市民と本気の協業！： 水と緑のまちづくり	まちの財産になる建物： 歴史を生かしたまちづくり	質の高い住環境を 目指す都市デザイン	情熱都市 みなとみらい21の誕生	様々な主体とまちを創り、育てる
イメージ	 くすのき広場	 いたち川	 馬車道商店街	 グリーンマトリックス	 みなとみらい21地区	 旧庁舎街区活用 事業 (当初案)  たまプラーザ 駅前開発
ねらい	<p>(1) 横浜の都市課題であった遅れた戦災復興や五大戦争に対して横浜市が打ち出した六大事業などに併せて、いかにして都市デザインの取組みを始めるに至ったのか、当事者の言葉で具体的に知る。</p> <p>(2) 「プロジェクト」「コントロール」と連携して、どのように「都市デザイン」を推進していったのかを知る。</p> <p>(3) 横浜ならではの個性ある空間的魅力を作ってきた、横浜都市デザイン黎明期の思想を知る。</p>	<p>(1) 「<u>地域資源を生かす</u>」という都市デザインの精神は、どのように都心部から郊外へと展開していったのかを知る。</p> <p>(2) 全国的な治水・親水空間の整備創出の潮流と、市民協働の動きがどのように歩みを揃えていったのかを知る。</p> <p>(3) 現在も市民に引き継がれている都市デザイン活動について検証し、今後の自然資源を生かしたまちづくりの糧とする。</p>	<p>(1) 当初の街並み保全から現在の積極的活用に至るまで取り組んできている馬車道の事例を通じて、<u>広く一般市民の方の歴史を生かしたまちづくりに対する理解を深める。</u></p> <p>(2) 震災戦災により壊滅的な打撃を受けた横浜にとっても、「<u>横濱らしさ</u>」を物語る数少ない資源の一つが「<u>歴史</u>」や「<u>歴史的建造物</u>」であることとらえ、精力的にその制度設計を行ってきた当時の思想や取り組みを知る。</p> <p>(3) 歴史的建造物を都市空間の景観的価値としてとらえ保全活用する要綱制度が制定された昭和63年当時、横浜の取り組みは全国的にも先進的であり、これにより横浜の個性を守ってきたことを知る。</p>	<p>(1) 郊外部の大型住宅開発プロジェクトを実現する中の都市デザイン的な思想や、住民と共に育んできた街が時間を経てまちが如何に魅力的に成長してきたのかを知る。</p> <p>(2) 当時、理想的な住環境を求め、住民や地権者と共にまちづくりを行ってきた結果、高いシビックプライドが生まれ、新たな市民活動がうまれる結果となった、その理由を探る。</p> <p>(3) 職住近接を目指した大型開発の当時の思想とその思想の実践方法を知ると共に、30年以上が経過した今のまちの在り方について検証する。</p>	<p>(1) 六大事業による大型プロジェクト、宅地開発要綱等による開発のコントロール、都市デザインによる総合調整の3つの基本戦略の関係性について、みなとみらい21地区を事例に、どのように三位一体が展開されたのかを知る。</p> <p>(2) 企業、行政双方の立場から語ってもらい、みなとみらい21地区開発における都市デザイン手法の展開について知る。</p> <p>(3) MM21地区で活動している方々に、現在地区内の賑わい形成等の取り組みは過去のまちづくりの過程から連続と紡がれてきたものであることを知っていただき、シビックプライドへ繋げる。</p>	<p>(1) 都市デザインは、民間事業者や地元商店街、市民等と柔軟かつ創造的に展開してきた。財政状況の悪化や人口減少、少子高齢化等が顕在化すると共に都市が成熟してきた2000年代以降、より一層民間の創意工夫を生かした都市デザインの展開が求められている。官民で共通の目標を設定し、新たなルールの策定等も行いながら、<u>創造的まちづくりを行ってきた取組手法</u>について知る。</p> <p>(2) 新たに「つくる」ことを中心に展開してきた時代から、資産を有効活用し、更に魅力向上につなげるため、「つかう」ことへシフトする試みが積極的に進められている。市内の取り組み事例から、<u>場所や時代ごとのニーズを敏感に捉えて実践してきた思想や手法</u>を知る。</p>